

川崎支部便り 第 64 号 (2023 年 05 月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：山岸))

人生を豊かに(雑学のすすめ)

伝説の宮大工西岡棟梁のことば

「棟梁一技を伝え、人を育てる」一流の職人のつぶやきです。語るのは小川三夫氏です。伝説の宮大工・西岡常一（つねかず）の唯一の内弟子です。木を熟知し、深く対話し、その属性を美しく生かすことの技量で知られています。

西岡常一棟梁のハッとさせる言葉が有ります。「嘘を教えれば嘘を覚える。研ぎは全くそうや。ほんとうを覚えるのには時間がかかる。時間はかかるが一旦身についたら、体が今度は嘘を嫌う。嘘を嫌う体を作ることや」「体に記憶させる、体で考える」「掃除をさせたらその人の仕事に向かう姿勢、性格が分かる」「飯をつくらせたらその人の段取りの良さ、思いやりがわかる」「自分が惨めになるような考え方に持って行ったらあかん。苦しい中にも楽しいことを、みつけだすことや」等々。

なかでも「不器用の一心に勝る名人はいない」というつぶやきには感心します。これは西岡棟梁の口癖だったようですが、小川棟梁曰く、器用な人間は器用に溺れて一心が固まらない。自分が出来ると思っているから「ここでいい」という線を読んでしまう、だから深いところまで到達することが出来ない。一方、不器用はどうか。素直さと根気強さが有れば、一段ずつ階段をのぼっていき、着実に上手の方に向かっていく。名人と言われる匠は、実は不器用が多いらしいです。

(補足) 宮大工の小川三夫氏は、鵜（いかるが）工舎設立から 30 年後の 2007 年、60 歳で代表を弟子に譲りました。いまでは鵜工舎で修業する若い弟子たちの育成に携わりつつ、講演などを通じて宮大工としての経験を世の中に伝えています。組織では上が退くことで若い人たちに活躍の場が生まれ、次の世代に技術を伝承しています。

――60 歳という年齢はトップを退くには早いように思います。

「私は西岡常一棟梁に弟子入りしてから 10 年間修業し、30 歳で独立しました。その後の 10 年で、自分 1 人で生計を立てられる職人になることが出来ました」。(ずばり池波正太郎 里中哲彦 文藝春秋)

川崎点描：川崎支部活動拠点

【かわさきゆかりの人―濱田庄司②】

2022 年 4 月 第 51 号が好評のため、今回は濱田庄司の 5 男能生（よしお）が父濱田庄司についての思い出のインタビューです。ガラス工芸家濱田能生（1944-2011）は 1969 年から 3 年間イギリスの王立美術大学（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート）工業硝子科で学び、帰国後は栃木県鹿沼市に築炉創作を続けました。瑠璃や銀黄のガラスを基調にした濱田の作品は、全体にゆるやかな曲線と量感をそなえ、陶表現を伴う創意にあふれています。



(濱田能生 瑠璃硝子口透花瓶) (写真：Yahoo Japan より)

子供の時の思い出として、小学校に入るか、入らない位の時、入ってからも含めてですけど、なにしろお客さんが多い家だったものですから、夕ご飯のあとにお客さんとお会いすると、囲炉裏でいろんなよやま話をしているうちに、僕が眠くなっちゃう訳ですね。そうすると「ちょっと失礼します」といって、これから能生（よしお）を風呂に入れて寝かしつける。僕は親父が50歳の時に生まれた、末っ子なもんですから。一番別れるのも早い、まあ少しでも長くいられるようにということで、一緒に風呂に入る。どれがどっこい風呂で遊ばせてくれるんです。

親父は寝るのが達人で寝るのが早いんです。で、どこそこのばか話とかいうネタ本が有って、これを親父、古本屋さんから買っというて、そいつの内容を話してくれるんですけど、これがまた滅法面白い。そんなばか話をしてから寝かしつけてくれるんですけど、面白いから子供なんか寝やしないでしょう。親父の方が先に寝ちゃう。

あと鉄道唱歌なんかも歌ってくれた、子供のリクエストで軍暗マーチなんかやってもらった記憶がありますけどね。

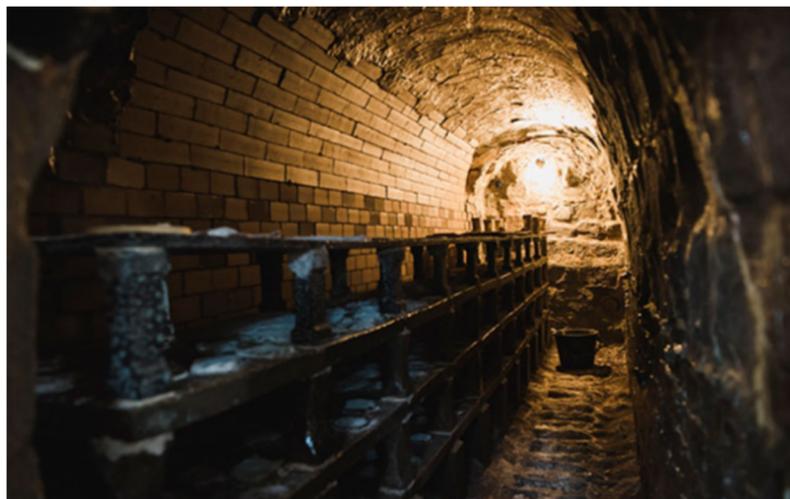
どこに行っても、話す内容というのは似ている。これは、親父にとって一番みなさんに知っていただきたい事を、父は何回も何回も話したんだと思う。してみるとそれは、それが具体的になんだといわれると頭抱えるところがありますけど、潜在意識みたいなもので、いつだって同じ話しているの、頭にこびりついている。今に至るも僕にとって、何かの決断をするとき、右か左を決める時に、それは大きく役立っている様な気がします。もしくは、こういう時に親父だったらどっちに判断するだろうな、そうするっていうと深読みするとその逆あたりやっときゃ面白いとか、そんなことがあったり。溝口には、生まれたかつお墓がある。

お墓があるのはすごいですね。あの親父の本にもどっかにかいてありましたよね、どこそこで生まれて、英国でどうして、そして益子でどうして、それで自分が入ったお墓の事は当然書いてないんですけど。ここにお墓があって、そこに入ったということがすべてを物語るだろうし、それじゃ簡単すぎるけど、それが最大限の意義だろうし、彼が非常に豊かな校友関係を作り、豊かな仕事をしたと思うし、そういう思想信条を育んだ土地、今は本当、僕らも含めて皆の生き方がセコクなった。

雄大な夢、自分の人生に自分で白い地図に色を塗ってみたいきざまというものを見られる、感じ取れるような施設が出来たら。特に、若い人達、子供たちになにかしら自分の大きな夢を作ってもらいたいなど、そういうための施設になってくれたら極めて嬉しいなと思います。

それに比較してそのような秀作群に対して、一体その地元・川崎でどういうものを見せられるのかな、ということになるでしょうけど、これはやっぱりその数は少ないだろうとは思いますが、まず

超初期のころがまず存在する。これは、ほかの民芸館にはないですから。そういう出発点、彼のいきざまを作った一番最初の影響を受けた物が、どういう風に変化して行くかという時に、**本当は一番先に川崎に見に行かなくてはいけない場所**なんです。幸いにも川崎にそういう美術館が出来るとすれば、例えばその作家の仕事を見たい、勉強してみたいという人がいたら、まず最初に川崎を訪れるべき存在。で、それから民芸館、大原美術館を見て、なるほどと納得がつくことでしょう。



(濱田庄司登り窯の内部)

(写真：Yahoo Japan より)

支部の活動

- ① 2023年4月22日(土)に理工学部白木教授の川崎支部定例講演会には在校生、校友会吉田元会長、柏門技術士会小林前会長、鳥取支部藤谷支部長、OB・OGの方々も参加し、好評でした。2021年の川崎支部「ミステリーツアー」で、母校の歴史(第一校舎・第二校舎)、隈研吾を追体験したことも、講演内容から思い出されます。

動画をご覧ください。 <https://youtu.be/18kr1fqlbvo>

川崎支部 <https://tcu-alumni.jp/branch3/kawasaki>

講演タイトル「**本学の創立の経緯と建学の精神**」

ご存じですか

「ビリギャル」の講演会

実話を基にした映画「ビリギャル」のモデルとなった小林さやかさん(米の一流大・コロンビア大の大学院へ合格)の講演会を聞きました。成功のポイントは以下の12点です。

- ① わくわくする目標を設定する。
- ② 何のために勉強するのか。
- ③ 誰の為に勉強するのか。
- ④ 自分で考える。ロボットではなく、他人に自分の考えを伝える能力が必要。
- ⑤ 根拠のない自信を持つ。周囲は結果しか判断をしない。勉強した経験が大事。
- ⑥ 自分の目標に挑戦する。
- ⑦ 自己肯定感を持つ。
- ⑧ 具体的な計画を立てよう。小さな成功の積み重ね。
- ⑨ 目標で夢を公言しよう。毎日の刷り込み。ピグマリオン効果一期待を込めれば、人は伸びる。
- ⑩ 憎しみをプラスの力に変える。憎しみが一番強い力。
- ⑪ コーチングで相手の能力を引き出す。
- ⑫ 功自体をほめる。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

2022/04/28

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一 TEL：090-9363-6082

E-mail：kawa_matsu51@v00.itscom.net